

ないで真っ当に政治してくれるトップのいる社会。

- ・ 選挙に行ったとしても、高齢者との人数比から、若者の1票の力はかなり小さく無力に感じられる。今の若者が社会に抱く感情は「怒り」です。それをぶつけても「選挙に来てください」では埒があかないと思う。働いたら損、税金納めたら損の社会を変えることが必要だと思う。自分に子どもが生まれたら、いつでも日本を離れ、海外で働けるように教育すると思う。
- ・ 価値観や可能性を広げ、一人ひとりが輝ける場所を見つけられること。
- ・ 若者向けの政策、若者に興味を持たせられるような政治的活動。これからの未来を作るのは若者だから若者はその当事者意識をもつべき、そのためにはまず政治への関心が必要日本の未来のためをお願いします。
- ・ お金に困らず希望を持って生きていけること
- ・ 同世代は口を揃えて「不景気が加速し、所得は増えず、税金や物価は上がっていく中で、将来への期待が持てない」や「かといって海外に行く、もしくは転職などのキャリアアップを目指そうにも、現時点での仕事生活で精一杯で、追加で何かをすることができない(選挙にも行く気力がない方も見受けられます)」や「それを政治行政頼りで変えるために選挙に行こうが行くまいが、少子高齢化が加速していく現代社会ではどのみち得票数の期待値が高い高齢者層の意見が尊重され、若年層の意見は尊重されない」などの意見を口に、様々な理由で「諦めている」状態となっている印象です。
- ・ 子育てに関しても、公園の遊具がどんどん撤廃されていくニュースや、そもそも公共の場で子供が遊んでいること自体に高齢者層がクレームを入れているニュースがよく目に入り、のびのびと子育てができる環境ではなくなっていることを感じるうえ、経済的余裕を体感できないことも相まって同世代では子供を産まないことを決めている夫婦も多くいます。
- ・ 30年程度のスパンで、短期的な社会の活性化、税収の増加を考えるのであれば、人口ピラミッドの中でも多くを占めている高齢者層への待遇を手厚くし、意見を尊重することは有効であると考えますがその後、一気に人口が減ることにより国だけでなく区単位での税収も著しく下がり間違いなく今とは比べ物にもならないほどに困窮したものになると想定されるため母数が多く、自由時間も多いためクレームやデモなどにも時間を割ける高齢者層からの声を気にしてしまう状態はよくわかりますが、その勢いに抗ってでも若年層・特に子育て世代の願いを積極的に聞き入れ、実現できる社会であること。またこれから子育て世代とな

る若者が「この社会なら安心して子供を産もうと思える」状態にしていくことが大切であると考えます。

- ・ もっとフリーに自由に生きていけるくらいの国にしていきたい。
- ・ まともに働いても対価が見合っていない。自分1人が生きていくので精一杯な世の中を変えて欲しい。今後家庭を築いていきたいと思うが今の世の中だと不安しかない。子供を育てやすい環境(地域)が整っても今の世の中では子育てをしたいと思えない。まずできない。今頑張っている子育て世帯が可哀想。子は国の宝、ただ謳い文句にすぎない。このままだと少子高齢化はますます加速し国を支える若者はいなくなると思います。国民の声はしっかり届いているはずなのに、全く前に進まず不安しかない。検討ばかりでなくもっと早く前に進めて欲しい。
- ・ 子供を欲しいと思える環境がほしい。

7 地域団体等

7-1 子どもの権利

- ・ 大人、又は行政が”子供の世界”に余り深入りしないこと。そっと“見守る”ことが大事と考えます。
- ・ 近年子どもの人権を、強く守り過ぎている気がする、善・悪の判断が今の子どもには、欠けている小学校低学年から、道徳教育を、見直して頂きたい
- ・ 子どもの人権を守ることはとても大切なこと。少子化が進む日本で、子ども達を地域で見守り、子育ての環境を良くすることが重要だと思います。

7-2 遊び場所・居場所

- ・ 子供の遊び場がほとんどない 公園ではしてはいけないことが多い為、自然があまりに少なく生き物と接することも自然の中でのいることを体験してほしい。
- ・ 公園で遊んでいる子供の数が増えて来ている感じがする。
- ・ 子供の遊び場が不足していること、公園でも制限があり、伸び々と遊べないと感じています。家の外で道路に座ってゲーム機で数人で暗くなるまでやっている様子を見ていると不健康的だなと感じ、本来の子供らしさが失われているようです。
- ・ 公園の整備は良く出来ていると思う。(数量的な面)
- ・ 公園や区民ひろばなど、子どもの遊ぶ場所が増えて、子どもが明るく楽しく過ごす姿が多く見られています。私も青少年育成委員会として、学校や

関係機関と連携をとりながら、子どもたちの健全な育成のため、貢献していきたいと思えます。

- ・子どもが自由に遊べる公園が少なすぎる ボール遊びはだめとか規制が多く ひっそりとかかわれていない公園が多すぎる もっと活用できる公園設置を!!安心して遊べる場所を作ってください
- ・子供が成長して行く時、おもいきり遊べるのが大事と思う、→おなかがよく→よく食べる→丈夫な体が出来ると→ストレスがたまらない→遊びの中で成長して行く、小さい頃から体験していくことが大事。
- ・公園でのボール禁止、学校行事や校庭でのイベント時の遊具使用禁止等々、リスク回避を優先した制限が多いように感じる。
- ・イベントを開催すると、その子の家庭環境が見えてきます。子どもの参加できるイベントを沢山開催する事も大切に思っています。
- ・コロナで地域の行事がなくなったことで人と人の関わりが希薄になってしまったと思います。以前の関わりにもどることが出来る様に行事を再開してほしいと思えます。
- ・PTAの前会長です。放課後の子どもの居場所的なものが少ない感じます。特に学童、スキップはギュウギュウなイメージです。
- ・自分の職場に近い「ト一横」に集まっている子ども達を見ると、家庭や地域に居場所がないのだろうな…と感じます。経済的な貧困もさることながら心の貧困が広がらないような社会が必要と思っています。
- ・親へのアプローチが困難になっている。一方的に考えを押しつけ変わらない親に専門の対応係があるとよいのと思う。豊島区は児相を作ったが、その先の受け入れる施設がない。スキップは学校毎にあるが、放課後デイは少なすぎる。民生、育成、学校域がバラバラで混乱する。

7-3 学校・教育

- ・教職員の適性を欠いた性的興味の強い人間が先生になったり子供達に被害を与えている。
- ・1 小中学校、スキップ関係職員の尽力に感謝 PTAや地域社会等外部の連携協力。 2 開かれた学校運営への努力には敬意を表しています 3 PTA、地域の協力とりわけ保護者のPTA活動参加が重要と思えます。
- ・小学校から、やる事、が多すぎる。
- ・子供達の為と言いつつながら体裁を整えることに重点を置いている気がしている。学校に年寄りを利用して学ばせることをする、道徳教育に重点をおいた指導が少ない。
- ・今の子供たちは、恵まれていると感じます。校舎はきれいで、冷暖房完備の教室・体育館、1人1台

のPCを与えてもらい。自宅でも学習できます。その中で、我慢強さや諦めない心や自分の夢や目標に向かってコツコツ努力する力を回りの大人たちが邪魔することなく、見守り、適度に手助けすることだと思えます。

- ・特に小学校の教員を増やして欲しいと思えます。児童によりそった指導を実施するには、たくさんの教員が必要だと思えます。
- ・学校の教育が、20年後30年後に役立つものなのかと疑問があります。
- ・特にコロナ後、子どもたちは、いろいろな制限を強いられてきたと思えます。ひとりひとりの生命がどれだけ大切であるか、そして回りの人たちも大切であるか、生命を大切にすることをしっかりと育てる教育を伸ばしていける社会にしたい。あと、個性を大切にすることも大切であると思えます。

7-4 子育て支援サービスの充実

- ・行事に参加する親子の様子から、親も子も「スマホ」頼みの育児になっている姿が見られ、コミュニケーションの低下を感じます。一方で習い事で忙しく余裕のない親子もいるようです。子育て支援には効率よりゆとり、特に人的な、時間的なゆとりが必要と思えますが、ボランティアの人員、メンバーにも余裕がなくなっています。
- ・ボランティアに頼っていることを事業として出来れば海外からの転入、通訳ボランティア、通級への送迎各学校に日本語教室。
- ・乳幼児から成人へとたくさんのお子さまの成長に携らせていただきました。子どもというよりも親への支援がほとんどで、養育不足愛情不足愛情過多様々です。特に心の病に関しては壁も高くくり返しくり返し門をたたいての活動です。加えて外国籍の御家庭への支援はなかなかむずかしくうまく介入出来ないことも多いです。
- ・外国籍家族への支援に苦労しています。(日本語の理解が不十分な大人の各種手続きの手伝い、子どもたちの学習支援等)
- ・ヒトの子育ては母親ひとりではできないということが周知されていません。子育てをファミリーでサポートする施策を充実することが必要です。

7-5 経済的支援

- ・子どもの貧困が多いのはおどろかされる。

7-6 情報提供・相談支援

- ・区では、様々な、サービスや、サポートを用意してくれているが、そこにたどり着けない子どもや、保護者が多いと感じる。日常の生活の中で、そんな、人々に、よりそえる場が必要だと思えます。

- ・生きづらさをかかえた子どもたちには、今ある環境が全てと思わないでほしい。様々なジャンルや境遇にある人々に合わせてあげたい。
- ・育成委員会として、保護者の方や、子どもたちと直接意見を交換する場をつくっていききたい
- ・発達障害や、問題行動の有無等の理由により、イベント等への参加受け入れを躊躇してしまうといったケースも散見される。養護教員等による対応のノウハウを共有できる機会が定期的に持てるとうい。
- ・共働きが当たり前になり、親に時間や気持ちの余裕がなくなっているように思います。何か協力出来ることがあればと思っている人も多はず。そういう人と人がうまくつながる場があればと思います。
- ・大人が孤立することで、子どもも孤立してしまうことが多いと思います。生活格差や、一人親、外国籍など、孤立しやすい立場の親が心身共に安定し、生活できるようにする(相談できる場がある)ことから、優しい気持ちで、子どもの成長を楽しみにする気持ちが生れると思う。
- ・子供達は自分の考えをうまく伝える事が出来ない。周囲に気を使かってきゅうくつに生活していると感じる。
- ・子供たちのおかれていた環境が地域でもわがりにくくなっている現状がある。学校と地域との連携や困ったときにすぐきがるに相談できる場が、様々な形であると良いと思う。

7-7 住環境・まちづくり

- ・おひとりの高齢者が多く気にかけています。その方々のご親戚など、何かあった時に連絡先も知らず、町会、民生委員の役割りが大切だと思えます。
- ・図書館をもっと充実してほしい。放課後よく母親の帰宅するまで過ごしている小学校低学年の子はマンガを読んでいる。日中なのに図書館に来ている中学生(?)。塾がはじまるまでよく勉強している中学生(宿題の課題を調べている)。高齢の私は毎日のように図書館で本びたり図書館は地域の文化水準だと思う。

7-8 地域の子育て支援

- ・老人・高齢者の集る所へ、ベビーカーで参加はいいかなものかと思う。コンサート、報告会等での子供が理解できない所での参加中の大声での会話や泣き声はいいかなものかと考えます。
- ・民生、育成の限界(高齢者が多すぎる)町会の限界(高齢化)。
- ・地域活動に参加する生徒が多くなってきた。小学校での方針が理解されてきたと思っている。中学

生にもう少し地域参加を呼びかけたい。特に、防災活動では機会を作りたい。

- ・地域への関心がうすい。
- ・町会行事や活動を民間サービスと同様に思っている保護者が非常に多い。
- ・住んでいる地域では問題がある様には感じないが住民どうしでコミュニケーションを取りプライバシーに配慮し情報を交換し、問題が起きない様対応したいと思う。
- ・今の時代は、二人親・一人親 共に、働き、保育園から学校に上がっても親が迎えにくるまで預けられている子どもたち、親も子ども毎日がいっぱい いっぱい大変だと思えます。私個人としては自分の孫たちにできる限りサポートはしたいと思うし、同じ気持ちでご近所の子ども、親たちにも接していききたい。
- ・子供が少ない。年が違うので一緒に遊ぶことがない。子供が外(道)で出合ない。
- ・地域のおばさんとして、地域の子どもたちを見守ることが、私の第一歩だと思ひ、それが自身の幸せにつながっています。
- ・イベントの時は子どもとふれあう時間等は、あるが子供と接する時間が少ないように思ひます。(児童委員の方は子供と接する時間があるのではないのでしょうか?)
- ・地域に子供はいるのですが、あまりかかわることがない。
- ・育成委員会で企画する行事によっては、安心安全に参加する子どもたちを見守るためにも、委員の人数から考慮して参加する子どもの人数を決めています。よって、せっかく子どもたちが申し込んでも抽選で落とさなくてはならないこともあるので残念に思ひます。いわゆる健常児と言われる子どもたちだけに目を向ける育成委員会ではなく、どのような子も(支援を必要とされる子など)気軽に育成委員会の企画する行事に参加できる育成委員会でありたいと思ひています。
- ・ひろばに遊びに来る親子は少ない、イベントがどんなに工夫されていても保育園に行っているには参加不可。忙しい親が努力して子育てをしている姿に(それも最近は年齢も高いので)つい健康を心配してしまう。
- ・昔は地域の子供をしかる大人がたくさんいました。あの頃はあれで良かったと思ひます。今はしかるより1つでも良い所をしっかりと見てあげて、それをほめてあげる大人でいたいと思ひています。
- ・子どもがいることは、大人にとって未来への希望を与えてくれる。社会の活力というより、本当に宝だと感じます。親子が孤立することなく、地域

の人たちが気軽に手をさしのべられる社会にしたいものと思います。

- ・子どもに関係した問題は、地域にはあまりでてこない。お年寄り(ひとり住んでいる高齢者)地域でみていこうということができるが、子どもの問題はおもてには出にくい。子どもに関しても児童委員としてできることをしていきたい。(子どもだけではなく、家族をふくめて見守ったり関係機関につなげるなど)

7-9 ワークライフバランス

- ・少子化ということもあり、子育てはしやすい環境になっている。少子化対策として、まずは、「若者達が結婚する」というムーブメントをおこしてほしい。

7-10 豊島区の子育て環境の充実

- ・周囲に子どもが増えてきている感じはします。(ここ20年間で)結構なことで、区の取り組みも一因と思っています。
- ・現在子育てをしながら、民生委員をさせてもらう中で豊島区の環境はとても充実していると感じています。
- ・結婚を機に豊島区に在住し、子供を妊娠してから区の施設を利用するようになりました。母親学級に始まり、子育て中は区民ひろばに大変お世話になりました。豊島区は子育てしやすい場所だと思っています。都会のわりには公園もあり、とても助かっています。
- ・子育て支援の為、当番で、区民ひろばに出向いていますが、豊島区は、待機児童がいなくなり、来られる親子は、幼児で、親は産休で来られ、親同志の意見交換も見られず、遊ぶというよりか、あやすという感じで、これでいいのかなと思うことがある

7-11 その他意見

- ・私のまわりでは子供をあまりみかけない。学校の登下校で見かける程度で、子供の数も少なく、外で遊んでいる子は見当らない。
- ・子供を見かけることが少ない。
- ・この地域がそうなのかわかりませんが、子供達が外で遊ぶ声をあまり耳にしません。家の中でのゲームが主流なのか、習い事なのか、学童で帰宅していないのか…子供らしくが欠けている気がします。
- ・今の親は、上手にいろんな所を利用したり 友達とのれんけいが上手なので感心している
- ・中学生、高等学生さん方達私の知る限りでは、とても素直で良い子と思う。最近千歳橋中学の14

才の子が夜9時頃に出かけて化粧などし、爪を伸ばしてこの子が気になります。

- ・あいさつもろくに出来ない子供が多い。表情が暗い。うつむいて歩いている。体力が無い。運動会でも走り方は悪いし足の悪い子が息子の時代(現在20代)より少ない。メンタル・体力面共にどんどん弱くなっている気がします。
- ・日本の経済力衰退している中、大人も親も将来の不安や悩みをかかえていると思う。その状況の中で子育ても、昔にくらべると大変だと思う。個々の家庭の考え方に違いがあり、そして、プライバシーなどの問題もあり、他人が深くその状況を知ることがむずかしい。声かけをしてもなかなか、心の内を話してくれる人は、少ない、若い親はほとんどの人がSNSなどで解決しようとしているのでは。
- ・問7-1の回答の続きとなりますが、まずは、ご家族や、回りの大人達が、安心できる「言葉」をチョイスしたいです。せめて、心だけは、豊かで、健やかでありたいと思います。夫婦げんかや、意見の相違でバトルとかクレームとか etc…大人達がお手本を示していけないものかと、考えております。
- ・あいさつをする子供が多くなりました。
- ・なんでもコンプライアンスなんでも権利という中で、ボランティア活動をする事は本当にむずかしいと思います。子供との距離感も私は男なので、女の方々よりもむずかしいです。正直言って何もボランティアしない方がストレスはないと思います。
- ・学童補助教員のパートをしているので、小学校低学年に接していますが、目の離せない子(問題のある子)が多いです。特に気になるのが相手によって態度の違う子です。
- ・常識がわかっていない挨拶ができない、見上の人に対しての言葉使いが悪い(親も子も)子供をみてくれている人に対しての態度が悪い(親)協力する気持ちが無くやってもらってあたりまえだと思っている。
- ・今の子供達は習い事のせいで孫達を見ていても忙しそうです。私達はのんびり育ったのですね。
- ・まだ経験が浅いためよく分かりません。
- ・自分から、子どもに係わっていかないと、状況もわからないので、声を掛けていきたいと思ます。
- ・今は、随分優遇されていると思います。私の息子(現在31才、29才)その当時、医療費等あまり援助なり、優遇されていなかった。(学校給食にしても)
- ・自分の子供が小学生だった10~15年前と比較して、子どもをとりまく環境も大きく変わりました

(より低年齢のスマホの普及、コロナ禍、1人1台タブレット、先生方の働き方改革(まだ道半ばですが)共働き家庭増加に伴うPTAのあり様etc)ネット環境もあって情報過多になりがちですが、親御さんを追いつめることなくまわりの大人も心にゆとりをもって子育てを見守っていただけると感じています。

- ・ 民生児童委員として活動する中では、主に高齢者へのアプローチは多いが、地域の子どもを知る機会はほとんどない。主任児童委員などは案件を持っているかもしれないが、一般の民生委員には情報が少ない。地域性にもよる。又地域の学校からの情報もほぼない。学校との交流が課題。

7-1 2 保護者について

- ・ 親御さんなどが充分見守りが出来るとよいと感じます。
- ・ 親としての自覚が欠如し子供に対して暴力をふるったりする事
- ・ 親が子どもに関心を持っている目が少ない親が多い。ことは使いが荒すぎる、自分を大切に思える子どもに育てて欲しいと思えるような場作りはないのか、コミュニケーション不足(親子の)
- ・ こどもに対しては学校を中心としてそれなりに指導されていると思う。ただし保護者はいそがしすぎて学ぶ機会が少ない。
- ・ 小学生のお子さんのいらっしゃる知人、数人、普段は学童を利用し帰りも遅いの、休日は子どもデイサービスを利用し、しかも宿泊することもあるというご家庭があります。子どもと親がゆっくり話したり行動を共にする機会があまりないことにギモンを持ったり心配したりしています。余計な口出しもできず、昔に比べて子どもを預けてみていただく所。
- ・ 泣いている子に声をかけたりすると親がとてもしやな顔をしたり無視することもあり、ちょっとした声がけもなくなる傾向がある、子育て中の親は、泣かせていると虐待していると思われるので、子どもを泣かせない様にしてほしいと聞いたことがある。
- ・ 若いうちに複数の子供を持ち、安易に離婚をし、生活のために1日中働かなければならず。したがって貧困は増え、育児もままならない、その時の気持ちのままに生きている大人が増えてはいないか。
- ・ 親のしつけが悪い、イベント等でも上から目線でマウントを取っている。
- ・ 子どもに対する親の接し方に問題があると感じることがある。子どもがのびのびと成長できるような励ましや、頑張ろうと思えるような接し方でなく、親の意見や思いを子どもに押しつける様子が

うかがえ子どもがかわいそうにと思ったことがあった。

- ・ しつけ的な事項や、社会の中でのルール(特に交通規則、自転車の乗り方等)に関して注意がややおろそか。親が上記のような事項の指導について不十分。→親が守れていない。
- ・ 親世代が忙しくて子どもの話を聞く余裕がないように感じる。中学受験が当たり前になり、塾通いをしていて十分に遊ぶことがない子が多いのが気がかり。ベビーカーを引いていてもスマホを見ているパパママを見るときと子どもと目を合わせて話しかけてあげてほしいと思う。
- ・ 子どもの教育より保護者の教育をしたほうが良い。

7-1 3 希望・活力

- ・ 豊島の子供達は皆すくすく育っている、大丈夫。
- ・ 私の地域の子供達は元気に通学している様に見える。
- ・ 小学校の登校時は、大変元気よく、活動的に感じる。特に問題行動等を感じることは無い。
- ・ もっとのびのびと子どもらしく子ども時代を過ごさせてあげたい。
- ・ 子供達が元気に登校する姿を見ること。

8 区施設職員

8-1 子どもの権利

- ・ 子どもの権利を守ることを常に心がけなければいけない。
- ・ 子どもの権利を尊重しながら”子どものため”の保育を毎日試考錯誤しながら行っている。子どもの命を最優先に守りながらに仕事はとても大変だが、1人1人の成長が見られるためやりがいを感じる。
- ・ 子どもの権利条約等は、1回講演会や研修を受けただけではなかなか身に付かないため、数年ごとに何回かは受けた方が良い(子どもに関わる職員全員が)実際に受けなくても、資料を見るだけでもちがうため冊子を職場に置き自由に閲覧できるようにしていきたい。
- ・ 子どもの権利における子どもの意見をききとれる職員が少ないように思う。
- ・ 子どもの権利を守るために様々な機関がさらに連携しやすくなるといいと思います。